

ペースト状オブラート開平８－１７５９７１

【発行国】日本国特許庁（ＪＰ）

【公報種別】公開特許公報（Ａ）

【公開番号】特開平８－１７５９７１

【公開日】平成８年（１９９６）７月９日

【発明の名称】ペースト状オブラート

【国際特許分類第６版】

A61K 9/00 X

A61J 3/00 300 C

【審査請求】未請求

【請求項の数】１

【出願形態】書面

【全頁数】２

【出願番号】特願平６－３４０８４７

【出願日】平成６年（１９９４）１２月２４日

【出願人】

【識別番号】５９２１３７２３０

【氏名又は名称】森田 俊博

【住所又は居所】鳥取県米子市旗ヶ崎１丁目１０番３２号

【発明者】

【氏名】森田 俊博

【住所又は居所】鳥取県米子市旗ヶ崎１丁目１０番３２号

【要約】

【目的】 内用薬を服用しやすくする。

【方法】 本発明のペースト状オブラートを添加、混合して内用薬をペースト化する。

【効果】 ペースト化することにより内用薬の口腔内における流動性（滑り）が改善され、また味や臭いなどがマスキングされ飲み易くなった。なお、ペースト化しても容量があまり増えず、しかも少量ずつ服用できるので飲み残しがなくなった。

【特許請求の範囲】

【請求項１】 内用薬に混せてペースト化し、服用し易くするための添加剤

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】 内用薬、特に散剤はその味や物性などにより服用しにくいことがある。また、高齢者や乳幼児においては散剤のみならず、錠剤やシロップ剤でさえも服用拒否を示すことがある。本発明は内用薬を服用し易く変えるための添加剤である。

【０００２】

【従来の技術】 紙状オブラートで包むか、清涼飲料水などに混合して服用。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来の技術ではオブラートが破れたり口腔内に張り付いて飲み下せない、清涼飲料水に混合したところ容量が多くなり過ぎたり味がまずくなって飲み残した、などの課題があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 ペースト状にするための基剤（例えば高粘度タイプのヒドロキシプロピルメチルセルロース、ゼラチン、でんぷん、デキストラン、アルギン酸塩、カゼインナトリウム、フィブロイン、ポリエチレングリコールなど）に必要な応じて粘稠度調節剤（例えば軽質無水ケイ酸、グリセリンなど）、矯味剤（例えばショ糖、ブドウ糖、ステビア、アスパルテーム、サッカリン、クエン酸など）、芳香剤（例えばオレンジフレーバー、イチゴフレーバー、コーヒーフレーバーなど）、および防腐剤（例えばパラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸プロピル、パラベン類、ソルビン酸類など）、着色料などを添加、混合して本発明のペースト状オブラートを調製し、その適量を内用薬に添加、混合する。

【0005】

【作用】 内用薬の口腔内における流動性（滑り）の改善、および味、臭いなどのマスキング。

【0006】

【実施例】

第1例ペースト状にするための基剤として高粘度タイプのヒドロキシプロピルメチルセルロースを用い、これに粘稠度調節剤として軽質無水ケイ酸を添加した。配合比はヒドロキシプロピルメチルセルロース：軽質無水ケイ酸：水＝1：0.5：40とし、さらに防腐剤としてパラオキシ安息香酸エチルを0.005%、矯味剤としてサッカリンナトリウムを0.012%、芳香剤としてオレンジ油を0.75%添加して本発明のペースト状オブラートを調製した。その5gを苦みと臭いの強い散剤1.3g（消化薬）に添加、混合して服用させた。

第2例ペースト状にするための基剤としてゼラチンとグリセリンの混合物であるグリセロゼラチンを用いた。ゼラチン：水：グリセリン＝5：20：75の組成とし、さらに防腐剤としてパラオキシ安息香酸エチルを0.005%、矯味剤としてサッカリンナトリウムを0.012%、芳香剤としてオレンジ油を0.75%添加して本発明のペースト状オブラートを調製した。その5gを苦みと臭いの強い散剤1.3g（消化薬）に添加、混合して服用させた。

【0007】

【発明の効果】 内用薬の口腔内における流動性（滑り）が改善され飲み下すのが容易になった。内用薬の味や臭いなどがマスキングされ飲み易くなった。また、混合後の医薬品の

容量があまり増えず、しかも少量ずつ服用できるので飲み残しがなくなった。

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-175971

(43)Date of publication of application : 09.07.1996

---

(51)Int.Cl.

A61K 9/00

A61J 3/00

---

(21)Application number : 06-340847

(71)Applicant : MORITA TOSHIHIRO

(22)Date of filing : 24.12.1994

(72)Inventor : MORITA TOSHIHIRO

---

### (54) PASTY WAFER

#### (57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an additive, pasty wafer, intended to facilitate to be administered through its mixing with a medicine for internal use into a paste, capable of improving the fluidity of the medicine in the oral cavity to facilitate swallowing the medicine, thus designed to make such a medicine easy to take as a result of masking the taste, odor etc. thereof.

CONSTITUTION: This pasty wafer is obtained by formulating a blend of e.g. high-viscosity type hydroxypropylmethyl cellulose, precipitated silica as consistency regulator and water at the weight ratio of (1:0.5:40) with 0.005wt.% of ethyl p-oxybenzoate as antiseptic, 0.012wt.% of saccharine sodium as flavor, and 0.75wt.% of orange oil as fragrance.

---

### LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.12.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3294033

[Date of registration] 05.04.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office